

倶利伽羅不動尊 東松山市所在
くりからふどうそん

この右手前方に倶利伽羅不動尊がある



俱利伽羅不動尊の覆屋





「市指定彫刻 俱利伽羅不動尊」とある



俱利伽羅不動尊

市指定有形文化財

昭和三十八年二月十八日 市指定

躍動する胴体をもった黒竜が利剣にからみ、その利剣を剣先から呑みこもうとしています。その左かたには鋭い爪を持った竜の手が、宝珠をわしづかみにしています。これが俱利伽羅不動尊であります。

俱利伽羅とは、インドの伝承で頭に半月を戴く、黒褐色の竜王であるといわれています。

俱利伽羅不動尊は、滝口や清水の湧出する水辺などに祀られることから、水神として造像されるものも多く、他に不動信仰に基づいたものがある。

この俱利伽羅不動尊は、高さ九十cm、幅三十三cm、厚さ二十二cmの大きさで、造像された年代は不明ですが、江戸時代の作であろう。また、清水のところに祀られていることから、水神として造立されたものであろう。

昭和五十九年三月

文化財を大切にしましょう

東松山市教育委員会



江戸時代に水神として造立されたと思われるという



前面の溜め池



不動沼



正面の建物の左に覆屋が見える



望遠で撮る





ため池は水生昆虫のすみか



都幾川歴史道コース 1



コシアキトンボ



オニヤンマ



ミスカマキリ



ゲンゴロウ

ため池で見られる水生昆虫



ため池のビオトープ

多くの生きものがすみかのような工夫がたいせつです。

水田のはしには斜面があります。まだ人が河川に堤防を築かなかつたころ、都幾川の水路が洪水のたびに右に左に大暴れして山をけずりつつあつたので、崖線といわれます。

この崖線の下には、しばしばわき水があります。水田は、稲の成長期に多量の水が必要ですが、川の本流から遠く離れた水田では、水不足が生じます。そこで、崖線の下にはわき水をためておくため池が作られていたのです。

最近、自然の池や湿地はうめ立てられて少なくなり、トンボやミスカマキリなど、水辺を好む昆虫たちの繁殖の場がせばまってきました。

このため、ため池のような農業目的の池を使って水生昆虫を呼びもどそうとする試みが注目されています。

例えば、池という環境には水辺の植物が生え、魚、水生昆虫、水辺の鳥といった生物が住みます。このひとかたまりの自然をビオトープといいますが、いろいろなビオトープを組み合わせると多様な自然を残すことのたいせつさが、次第に認められてきています。

東松山市・埼玉県
環境庁

前方に石碑が見える



嘉永五年は1852年である





参考ホームページ

<http://www10.ocn.ne.jp/~kosuke/higasimatuyama/higasimatuyama2.html>

<http://daihimaiin.blog95.fc2.com/blog-entry-24.html>

<http://daihimaiin.blog95.fc2.com/category5-1.html>